

2016 年 7 月 8 日 (金曜日)

アカデミックライティング I 第 12 講 論点を整理する

今日の目的

1. 「同質」の論点を「並列」させる
2. 論点を数え上げる方法
3. 論点を数え上げる際の留意点
 - 3.1 文末を書き出しに対応させる
 - 3.2 長い論述で数え上げる場合には、論点の内容を再提示する
 - 3.3 数え上げた論述がどこで終わるのかを提示する
4. 論点を数え上がることの有効性
5. 次回の課題

佐渡島沙織・吉野亜矢子著『これから研究を書くひとのためのガイドブック』（ひつじ書房 2008 年） pp.44-50

復習問題

問 1 主張のある文章には三種類ある。①頭括型、②尾括型、③双括型である。学术论文ではいずれのまとめ方が推奨されているか指摘し、その理由を説明しなさい。

問 2 悪い規定文には 3 つの特徴がある。それらを指摘し、その理由を説明しなさい。

p.44

導入

論文の序文に研究の目的を書こうとしている。研究の目的を箇条書きにしようと思う。思いつくままに目的を四つ列挙してみた。しかし、どうも納得がいかない。もう少し整理できそうな気がする。修正するには、どこをどのように直せばよいかを考えなさい。

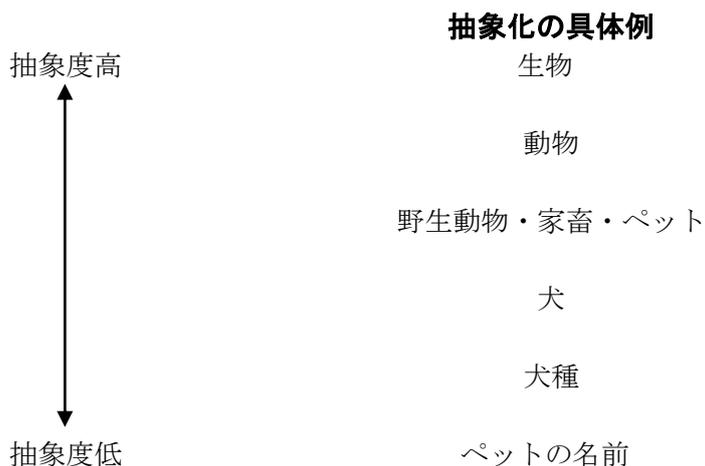
研究目的は以下の①から④である。

- ①家庭での子育てに対する、年代ごとの意識の差を明らかにする。
- ②子育ての役割分担意識は、年代別に、どのような差があるか。
- ③子育ての役割分担意識は、性別により、どのように現れるか。
- ④男性、女性、それぞれが家庭での子育てに対して持っている意識の現状を明らかにする。

1. 「同質」の論点を「並列」させる

「同質」の論点を「並列」させる前の頭のトレーニング

以下の問いは、「同質」を学ぶ上で重要な概念である抽象のトレーニング問題である。同質は、物事や現象を表す概念（＝ことば）が同じという意味である。概念も抽象化と同じように相対的であり、程度の問題である。



二語関係

関係（記号）	具体例	考え方
含む・含まれる （ ⊃ ⊂ ）	辞典 ⊃ 漢和辞典 「辞典」は「漢和辞典」を含む	A は B を含む A の一種が B
	野球 ⊂ スポーツ 「野球」は「スポーツ」に含まれる	A は B に含まれる A は B の一種
対立する概念 （ ⇔ ）	収入 ⇔ 支出 「収入」に対立する語が「支出」	A に対立する語が B
役 目 （ 役 ）	石けん：洗浄（役） 「石けん」は「洗浄」する	A は B する
原 料 （ 原 ）	日本酒：米（原） 「日本酒」は「米」からできる	A は B からできる
同じ意味 （ = ）	マグネット＝磁石 「マグネット」と「磁石」は同じ	A と B は同じ
同 列 （ 列 ）	邦楽：洋楽（列） 「邦楽」も「洋楽」も音楽の一種	A も B も～の一種
一組・ワンセット （ 組 ）	針：糸（組） 「針」と「糸」は一緒に使う	A と B は一緒に使う

問 「二語関係」に関する以下の問いで、最初に例示された二語の関係と同じ関係にあるものを選択しなさい。

Q1 鉛筆:文房具

ア シャープペンシル:筆記 イ ペンチ:工具 ウ 文学:小説

Q2 校則:規則

ア キロメートル:単位 イ 地球:星 ウ AKB48:アイドル

Q3 調味料:香辛料

ア 小説:私小説 イ 記者:取材 ウ 音楽:芸術

Q4 名桜大学:学校

ア コンピュータ:プリンター イ ビール:泡盛 ウ 辞書:本

Q5 インフルエンザ:病気

ア ネコ:動物 イ 食器:茶碗 ウ ガジュマル:木

Q6 医療器具:聴診器

ア オルガン:ピアノ イ コンピューター:マウス ウ CT スキャン:機械

Q7 生物:化学

ア 体温計:風邪 イ バイオリン:チェロ ウ 鍋:フライパン

「同質」の論点を「並列」

論点を挙げる時は、論点同士が「**同質**」であることが大切である。論点とは何をしようとしているかであり、具体的には、分析対象、分析観点、分析方法などがある。

テキストの例題の研究目的

- ①家庭での子育てに対する、年代ごとの意識の差を明らかにする。
- ②子育ての役割分担意識は、年代別に、どのような差があるか。
- ③子育ての役割分担意識は、性別により、どのように現れるか。
- ④男性、女性、それぞれが家庭での子育てに対して持っている意識の現状を明らかにする。

上記の例では、論点は「子育ての意識の差を明らかにする」、「どのような差があるか」、「どのように現れるか」および「現状を明らかにする」というように論点が異なっていることが分かる。

課題としては、「子育ての意識の差を明らかにする」、「どのような差があるか」、「どのように現れるか」および「現状を明らかにする」などを知った後、学術的にどうするのが明記されていない論点を一つにまとめる「**並列**」関係も重要である。

また、分析対象も同質であるべきである。たとえば、②と③にある「子育ての役割分担意識」、「年代別」と「性別」は同質である。さらに、「年代ごと」と「年代別」は同義、「性別」と「男性、女性」も同義であるので、①から④の目的は、分析対象として、「年代別」と「性別」にまとめることができそうである。

p.45

以下の 3 つの目的は「同質」であっても「並列」ではない。並列関係に修正しなさい。

- ① 子育ての役割分担意識を年代別に分析する
- ② 子育ての役割分担意識は男性ではどうか
- ③ 子育ての役割分担意識は女性ではどうか

解答

- ① 子育ての役割分担意識を年代別に分析する
- ② 子育ての役割分担意識を性別に分析する

2. 論点を数え上げる方法

論点を数え上げる書き方は次の 3 形式を備えている書き方である。

- ① これから<何を論じるのか>を予告する
- ② <論点の数がいくつあるのか>を明示する
- ③ <一つ一つの論点>に数字をあて記述する

その際に、「次は」、「以下は」という表現は用いると読み手が分かりやすくなり、有効である。

■練習問題

以下の三つの例文では、それぞれ論点が数え上げられている。次の 4 つの観点から例文を比較し、どの文章が、どのような意味で分かり易いかを述べなさい。

- ① <何を論じるのか>が書かれているか
- ② <どのように分析等が行われるのか>が書かれているか
- ③ <いくつ論点を挙げる>が書かれているか
- ④ <一つ一つの論点>はどのような形式で書かれているか

例文 1

留学生である筆者にとって、日本のお中元、お歳暮は賛嘆に値する習慣である。以下の二つの理由を述べる。第一に、目上の人に対して日頃の感謝やご無沙汰のお詫びを、一斉に贈り物によって表現できるのだから、まだまだ「縦社会」である日本には便利な習慣である。第二に、独り暮らしの年寄りに対して季節の贈り物をすることができるので、「高齢化社会」に向かう日本では必要な習慣である。

例文 2

第 2 節 お中元、お歳暮が社会にもたらす利点

日本のお中元、お歳暮の慣習が日本社会にとってどのような利点をもたらしているかを以下の 2 点整理してみよう。

1 点目として挙げられるのは「贈り手および貰い手にとって有用である」という点である。贈り手は日頃お世話になっている人に対して、直接出向いて感謝の気持ちを述べるべきところ、物を贈ることで代替できる。貰い手は、訪問によって時間が割かれることがなく、実用的な物を貰うことができる。

2 点目として挙げられるのは「経済を活性化している」という点である。お中元・お歳暮用の商品が作られ、それが生産者から卸売業者、小売業者、貰い手という順で流通する。

配達アルバイトなどの期間限定の労働需要も発生させる。

このようにお中元・お歳暮の慣習は、消費者にとっても業者にとっても有益で、日本社会に利点をもたらしている。

例文 3

日本社会におけるお中元、お歳暮の習慣

お中元、お歳暮の習慣は見直されるべきである。以下二つの側面からその理由を述べる。これらの二つの側面から、日本社会の変化を認識し、お中元、お歳暮の習慣が時代に合わなくなっていることを再認識したい。

(1) 個人主義の強まり

現代は個人の趣味や志向が多様化し、贈られる側の趣味や志向を把握することが難しい。カタログギフトが重宝されるのはその現れである。相手の好みの贈り物を選ぶことが困難なことから贈る側は精神的に負担を感じる。贈られる側にとっても、趣味や志向に合わないものをもらったときには負担になる。

(2) 「モノ余り」傾向の強まり

日本は世界でも有数の豊かな国となりモノがあふれている。モノを揃えることよりも、いかにモノを減らしてすっきりと暮らすかということを特殊した書物が流行るくらいである。こうした「モノ余り」の社会の中で、実用品を貰うという喜びは、以前と比べて薄くなっている。

p.39

3. 論点を数え上げる際の留意点

3.1 文末を書き出しに対応させる

書き出しが「第一点目は、…」 「第二点目は、…」 の場合の文末は「という点である」となる。

書き出しが「一つには、…」 「二つには、…」 の場合の文末は「～だからである」となる。

書き出しが「1.…」 「2.…」 の場合の文末は整合性を気にする必要なく「～である」とするのが一般的である。

3.2 長い論述で数え上げる場合は、論点の内容を再提示する

論点を数え上げる目的は、読者に論点を明確にし、また書き手が考え、整理した理由がいくつあるかを知らせることで読み手の理解を助けることであるため、論点は長文よりも単文が望ましい。しかし、どうしても長文にならざるを得ない場合やページが変わる場合は、「一つ目は、」「二つ目は、」とするのではなく、「一つ目の理由は」や「一つ目の根拠は」等のように書き出しに論点を加える。

3.3 数え上げた論述がどこで終わるのかを提示する

論点を数え上げた場合、最後の論点を述べた後には、「以上二つの理由を述べた」あるいは「以上が二つの理由である」等のように論点が言い終わったことを書く。

3.4 数え上げた論点の順番通りに説明する

論点が数え上げられることで、読み手は根拠が論点の順番通りに説明されると期待して読む。そのため、論点と順番を入れ違えた文を作成してはいけない。

■練習問題

以下の文章には問題点がある。どこが問題なのかを指摘しなさい。

留学生である筆者にとって、日本のお中元やお歳暮は、驚嘆に値する。驚嘆の理由を 2 つの視点、第一は「縦社会」の観点から、第二は「高齢化社会」の観点から述べる。驚嘆に値する第一の理由は、独り暮らしの年寄りに対して季節の贈り物をすることができるので、「高齢化社会」に向かう日本では必要な習慣であることだ。驚嘆に値する第二の理由は、目上の人に対して日頃の感謝やご無沙汰のお詫びを、一斉に贈り物よって表現できるのだから、まだまだ「縦社会」である日本には便利な習慣である。

4. 論点を数え上げることの有効性

論点が数え上げられるこのこと有効性として、以下の 4 点が挙げられる。

①実際に論点が示されるよりも前に予告を読むので、示された論点は何のために書かれているかの全体像を把握して読むことができる。

②論点が番号を付して示されているので読者は展開を期待しながら読むことができる。

③書き手が論点をいくつ整理したかが分かり、読み手の論点数と比較ができる。

④全体像を把握して読むことができるので、読者は何番目の論点を読んで着るのかを認識しながら読み進めることができる。

アクティビティ

以下の文章では論点を明視されていない。論点を明示し、読みやすい文章に書き換えなさい。

観光が沖縄県経済へ与える影響は大きい。観光が沖縄県経済へ与える影響を考察する指標は、観光客数、観光客一人当たりの沖縄県内での消費額、宿泊日数、消費占める沖縄県産品の割合である。沖縄の入域観光客数が年々増加していることが分かる。しかし、外国人観光客数と国内観光客数と比較してみても分かるように、外国人観光客数は増加傾向にはあるが全体の観光客数に比べ少ない。

チェックリスト

- 論点が同質である。
- 論点が並列されている。
- 論点を数え上げる場面で、これから何が述べられているかを予告している。
- 論点を数え上げる場面で、いくつの論点が述べられているのかを予告している。
- 数え上げて論じている場面で、読者は論がどこで終わるのが明確に分かる。

復習

「マップ」と「パラグラフ」および本日の「論点を数え上げる」は下図のどこに位置しているかを述べなさい。

文章作成展開図

